

計画期間：平成30年度(2018年度)～令和4年度(2022年度)の5カ年

スポーツを取り巻く社会の背景

- スポーツ庁の創設と第2期スポーツ基本計画の策定
- ラグビーWC2019や東京2020など国際大会の開催
- 札幌冬季オリパラの取組み
- 障がい者スポーツへの注目の高まり
- 道内における人口減少や高齢化などの課題 など

基本方針

- ◎ 北海道らしく、スポーツを「する」「みる」「ささえる」
- ◎ スポーツの価値で、北海道に好循環(ひとものけき)を生み出す
- ◎ スポーツで北海道と世界をむすぶ
- ◎ 東京2020オリパラの好機をつかみ、「その先の、道へ。」つなぐ

目指す姿：スポーツ王国北海道の実現 ～「スポーツの風」で未来をひらく～

5つの柱

具体的方策

柱1 スポーツで変わる北海道民

- ・ 様々な世代のライフステージに応じたスポーツ活動の推進
- ・ 幼少期からのスポーツ機会の充実と子どもの体力向上
- ・ スポーツに親しむ場の確保
- ・ スポーツをみる・ささえる応援文化の構築

柱2 スポーツで変える地域・経済・共生社会

- ・ スポーツによる地域の活性化
- ・ スポーツの成長産業化
- ・ スポーツでつくる優しい共生社会

柱3 「どさんこ選手」の国際競技力の向上

- ・ 競技力向上に向けたアスリート強化、指導者の充実
- ・ 世界に羽ばたく次世代アスリートの発掘・育成
- ・ 国内外からのスポーツ合宿の誘致促進や海外アスリートとの交流機会の拡大
- ・ ウィンタースポーツの競技力向上

柱4 スポーツを通じた人づくり

- ・ スポーツによる人間力の形成
- ・ スポーツ人材の働く環境づくり
- ・ スポーツボランティアの普及促進
- ・ 大学との連携によるスポーツ人材の養成

柱5 東京2020オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出

- ・ 東京2020オリパラ開催による好機の活用
- ・ 札幌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成